

マダムと女房 (1931)

メディア 映画
ジャンル コメディ 音楽
製作国 日本
色彩 B&W
時間 57分
初公開日 1931/08/01

【解説】
北村小松の原作・脚本を五所平之助が監督したコメディで、日本初の本格的トーキー作品として知られる。トーキーを意識した、全編「音」が鳴りっぱなしの賑やかな作品。同時録音だったこともあり、撮影現場はありとあらゆる防音対策が取られたという。
劇作家の芝野新作は、脚本を書くため静かな郊外の住宅地へ引っ越した。様々な邪魔が入り執筆が進まない上、隣の家から大音量のジャズが聞こえてきて仕事が手につかない。新作は隣家に怒鳴り込むが、その家のマダムにメロメロになってしまい、ジャズを口ずさみながら帰宅する始末。新作は順調に脚本を書き進めるのだが、妻は隣のマダムに嫉妬していた。

【クレジット】
監督 五所平之助
原作 北村小松
脚色 北村小松
撮影 水谷至広
星野斉
山田吉男
作詞 サトウ・ハチロー
作曲 高階哲夫
島田晴誉
助監督 富岡敦夫
蛭川伊勢夫
出演 渡辺篤 劇作家・芝野新作
田中絹代 その女房
市村美津子 娘テル子
伊達里子 隣のマダム
横尾泥海男 画家
吉谷久雄 新作の友人
月田一郎 新作の友人
日守新一 見知らぬ男
小林十九二 音楽家
関時男 音楽家
坂本武 運転手
井上雪子 隣の少女
帝国ジャズバンド Teikoku Jazz Band
宮田ハーモニカバンド Miyata Harmonica Band